

# Asia Indicators

発表日：2022年8月5日(金)

インフレ率、韓国は約24年、インドネシアは約6年ぶりの水準に(Asia Weekly(7/31~8/5))

～生活必需品に加え、経済活動の正常化を受けて幅広くインフレ圧力が強まる動きも～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:03-5221-4522)

## ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
7/31(日)	(中国)7月製造業PMI	49.0	50.4	50.2
8/1(月)	( <b>韓国</b> )7月輸出(前年比)	<b>+9.4%</b>	<b>+9.4%</b>	<b>+5.2%</b>
	7月輸入(前年比)	<b>+21.8%</b>	<b>+20.7%</b>	<b>+19.4%</b>
	(中国)7月財新製造業PMI	50.4	51.5	51.7
	( <b>インドネシア</b> )7月消費者物価(前年比)	<b>+4.94%</b>	<b>+4.82%</b>	<b>+4.35%</b>
8/2(火)	( <b>韓国</b> )7月消費者物価(前年比)	<b>+6.3%</b>	<b>+6.3%</b>	<b>+6.0%</b>
	(豪州)金融政策委員会(政策金利)	1.850%	1.850%	1.350%
	( <b>香港</b> )6月小売売上高(前年比・数量ベース)	<b>▲4.1%</b>	--	<b>▲4.8%</b>
8/5(金)	( <b>タイ</b> )7月消費者物価(前年比)	<b>+7.6%</b>	<b>+7.8%</b>	<b>+7.7%</b>
	(インドネシア)4-6月実質GDP(前年比)	+5.44%	+5.17%	+5.01%
	(インド)金融政策委員会(レポ金利)	5.40%	5.40%	4.90%
	(現金準備率)	4.50%	4.50%	4.50%
	( <b>シンガポール</b> )6月小売売上高(前年比)	<b>+14.8%</b>	--	<b>+17.8%</b>

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

## 【韓国】～生活必需品のみならず全般的にインフレ圧力が強まり、インフレ率は約24年ぶりの水準に加速～

1日に発表された7月の輸出額は前年同月比+9.4%となり、前月(同+5.2%)から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向が鈍化するなど頭打ちの様相を強める展開が続いている。財別では、原油をはじめとする商品市況の上振れを反映して石油製品関連の輸出が大きく押し上げられたほか、自動車など輸送用機械関連の輸出は堅調な動きをみせる一方、主力の輸出財である半導体など電子部品関連の輸出は力強さを欠く展開が続いている。国・地域別でも、米国向けが大きく拡大して輸出全体を押し上げているほか、最大の輸出相手である中国向けをはじめとするアジア新興国向けに底堅さがみられるものの、EU(欧州連合)向けや中南米向け、中東向けなどは弱含む対照的な動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比+21.8%となり、前月(同+19.4%)から伸びが加速している。前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出とは対照的に堅調な動きが続いている。原油をはじめとするエネルギー資源関連のほか、穀物など幅広い国際商品市況の上振れの動きが輸入額を押し上げる展開が続いている。結果、貿易収支は▲46.69億ドルと4ヶ月連続の赤字で推移している上、前

月（▲25.75億ドル）から赤字幅が拡大している。

2日に発表された7月の消費者物価は前年同月比+6.3%となり、前月（同+6.0%）から一段と加速して1998年11月以来となる約24年ぶりの伸びとなった。前月比は+0.48%と前月（同+0.61%）からペースこそ鈍化するも上昇が続いており、原油などエネルギー資源価格の上振れに伴いエネルギー価格の上昇が続いているほか、穀物など商品市況の上振れを受けて食料品価格も上昇の動きを強めるなど生活必需品を中心にインフレ圧力が強まる動きがみられる。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.9%と前月（同+3.9%）と同じ伸びとなっているものの、インフレ率とともに中銀の定めるインフレ目標（2%）を上回る推移が続いている。前月比も+0.37%と前月（同+0.42%）からペースこそ鈍化するも上昇が続いており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れに加え、金融市場における通貨ウォン安に伴う輸入物価の上昇も重なり幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かっているほか、感染拡大一服による経済活動の正常化の動きを反映してサービス物価も押し上げられるなど、幅広くインフレ圧力が強まっている。

図1 KR 貿易動向の推移

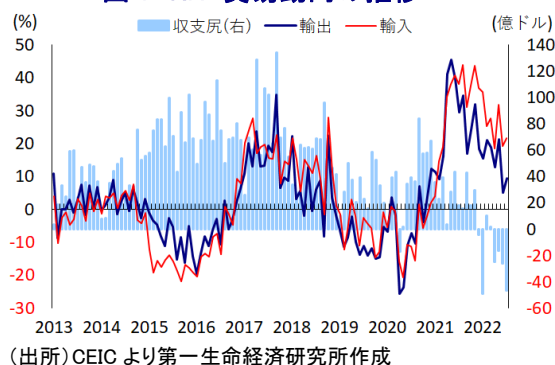
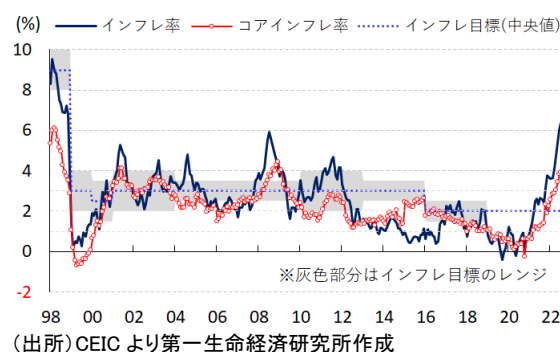


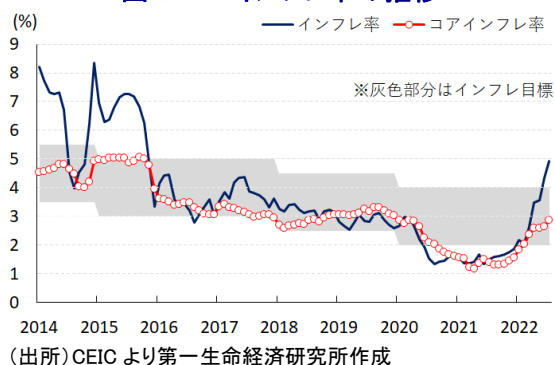
図2 KR インフレ率の推移



### [インドネシア]～生活必需品を中心とする物価上昇を受けて、インフレ率は約6年ぶりの水準に一段と加速～

1日に発表された7月の消費者物価は前年同月比+4.94%となり、前月（同+4.35%）から加速して2015年10月以来となる約6年ぶりの伸びとなるとともに、中銀の定めるインフレ目標（3±1%）を上回る水準で推移している。前月比も+0.64%と前月（同+0.61%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー資源価格の上振れを反映してエネルギー価格が大きく押し上げられているほか、穀物をはじめとする商品市況の上振れを受けて食料品価格も上昇の動きを強めるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.86%と前月（同+2.63%）から加速して2020年3月以来となる2年半弱ぶりの伸びとなっているものの、インフレ目標の範囲に収まる推移が続いている。前月比は+0.28%と前月（同+0.19%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れに加え、金融市場における通貨ルピア安による輸入物価の押し上げも重なり幅広く財価格が上昇する動きがみられるほか、感染一服による経済活動の正常化の広がりやを反映してサービス物価も上昇の動きを強めるなど、全般的にインフレ圧力が強まっている様子が見えてくる。

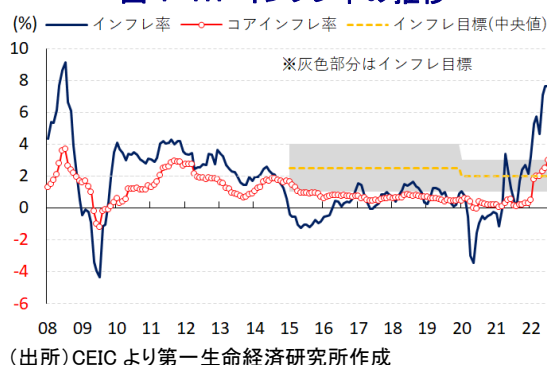
図3 ID インフレ率の推移



### [タイ]～エネルギー価格の下落でインフレ率は一服も、経済活動の正常化に伴いインフレ圧力は強まる展開～

5日に発表された7月の消費者物価は前年同月比+7.6%となり、前月（同+7.7%）からわずかに伸びが鈍化しているものの、7ヶ月連続で中銀の定めるインフレ目標（ $2 \pm 1\%$ ）を上回る推移が続いている。前月比は▲0.16%と前月（同+0.90%）から7ヶ月ぶりの下落に転じているものの、穀物などの商品市況の上振れを受けて食料品価格は上昇する一方、原油などエネルギー資源の国際価格の上昇一服を受けてエネルギー価格は下落に転じるなど、生活必需品の物価はまちまちの動きをみせている。なお、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まる展開が続いている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+2.99%と前月（同+2.51%）から伸びが加速しており、インフレ目標の上限に一段と近づいている。前月比も+0.50%と前月（同+0.24%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の下落を受けて輸送コストは下振れする一方、金融市場でパーツ安による輸入物価の押し上げが幅広く財価格の上昇圧力を招いているほか、感染一服による経済活動の正常化を反映してサービス物価も押し上げられるなど、幅広くインフレ圧力が強まっている様子がうかがえる。

図4 TH インフレ率の推移

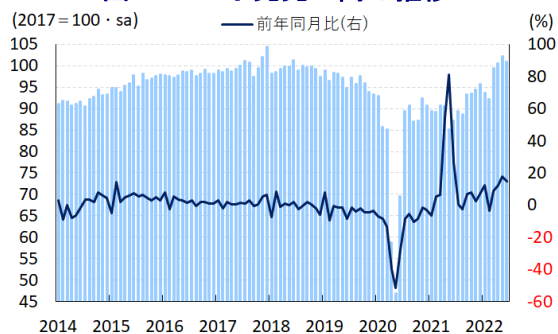


### [シンガポール]～ペントアップ・デマンドが一巡する動きはみられるが、生活必需品を中心に需要は堅調～

5日に発表された6月の小売売上高は前年同月比+14.8%となり、前月（同+17.8%）から伸びが鈍化した。前月比も▲1.39%と前月（同+1.77%）から4ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。なお、同国では月ごとに自動車販売が大きく上下に振れる上、小売売上高全体の動向を左右する傾向があるものの、当月は前月比+3.56%と前月（同▲5.73%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じている。よって、自動車を除いたベースでは前月比▲1.95%と

前月（同+2.70%）から4ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は全体と同様に拡大傾向で推移するなど底堅さがうかがえる。行動制限の解除によるペントアップ・ディマンド発現の一巡を受け、宝飾品をはじめとする高額消費のほか、余暇消費などが一服する動きがみられる一方、燃料など生活必需品に対する需要は堅調な上、医療関連の需要も旺盛な推移が続いており、コロナ禍が引き続き家計消費に影響を与える状況は続いている。

図5 SG 小売売上高の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

**[香港]～雇用の回復が遅れるなかで物価上昇による実質購買力の下押しが重なり、家計消費は弱含む展開～**

2日に発表された6月の小売売上高（数量ベース）は前年同月比▲4.1%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、前月（同▲4.8%）からマイナス幅は縮小した。前月比は+2.13%と前月（同▲10.54%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど力強さに乏しい推移が続いている。財別では、食料品や燃料など生活必需品に対する需要は底堅く推移しているものの、家電製品や宝飾品など高額消費が弱含む動きが続いているほか、衣料品をはじめとする日用品関連の需要も下押し圧力が掛かっており、雇用の回復が遅れるなかで足下では生活必需品を中心とするインフレにより実質購買力に下押し圧力が掛かるなかで家計部門の消費意欲が後退している様子が見え始める。

図6 HK 小売売上高(数量ベース)の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。